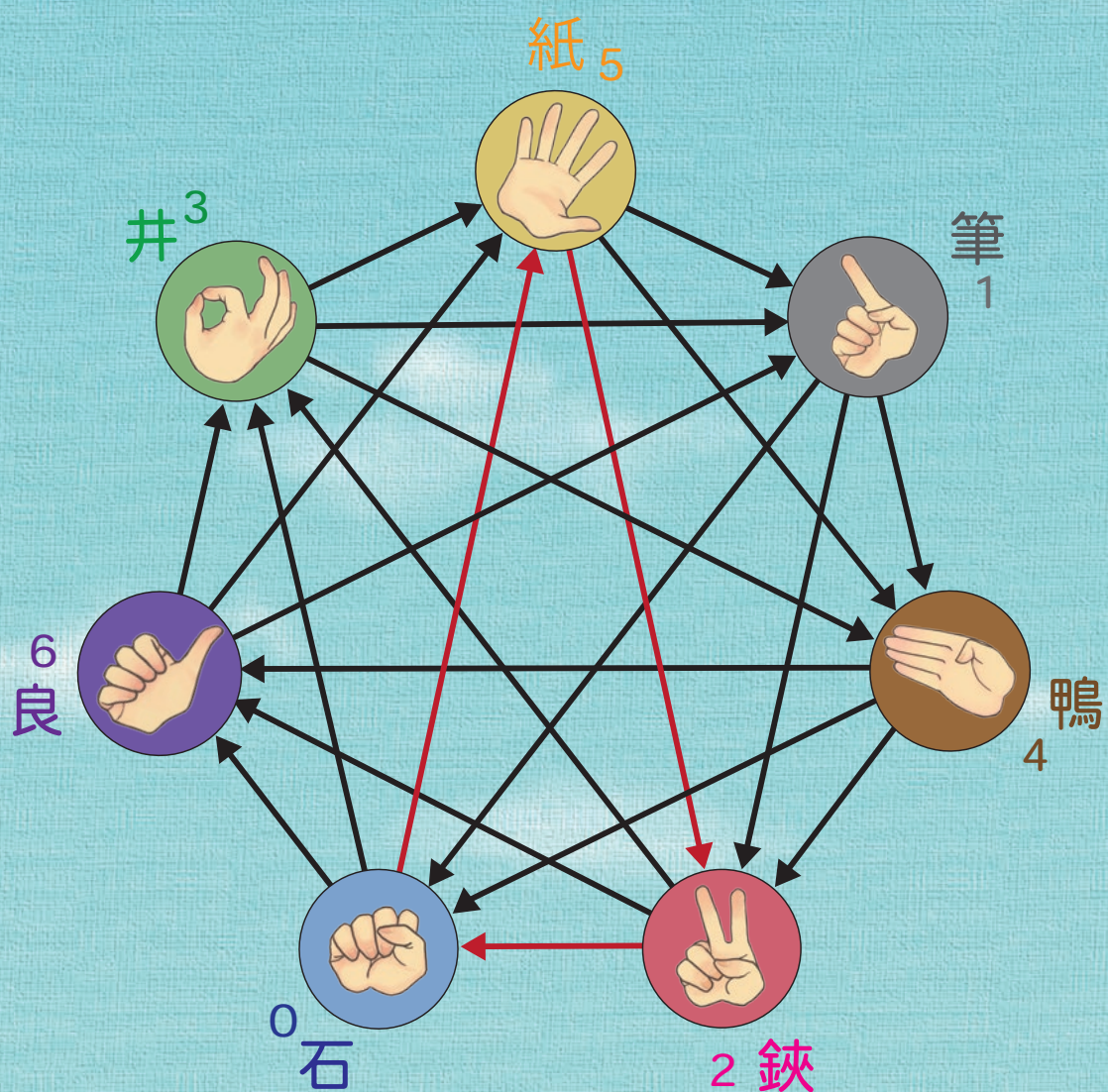


# 銀河企画・数理科学セミナー

2019年6月

特集 ばとけん

弱 → 強



# ばとけん

柴崎銀河

『ばとけん』<sup>[1]</sup>は、手の型で勝負判定をする遊び「じゃんけん」に様々な手の型を追加して7種類に拡張した遊びの名称です。

## 経緯

(1) じゃんけんの手の型（以下では「手型」）をカードに描いてパズルゲームの素材になるものを制作しました。

(2) 最初のきっかけは、じゃんけんの「あいこ」を回避するために、グー・チョキ・パーが同時に出たらチョキの勝ちにしてしまうことでした。→「**チョキじゃんけん**」<sup>[2]</sup>

(3) じゃんけん用のカードは、『めんこ』に見られるように昔からあって、最近ではカイジの限定ジャンケンなどが有名です。

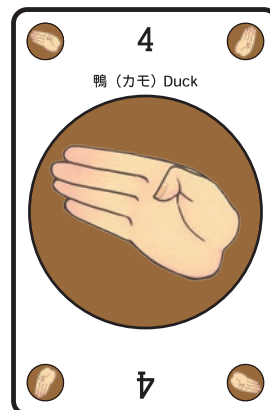
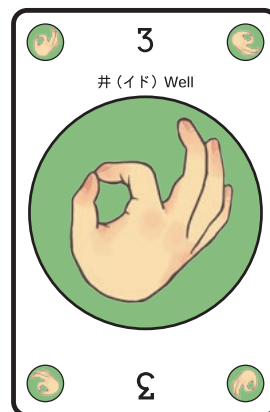
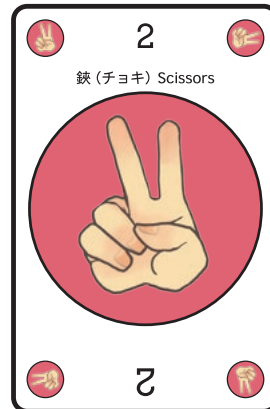
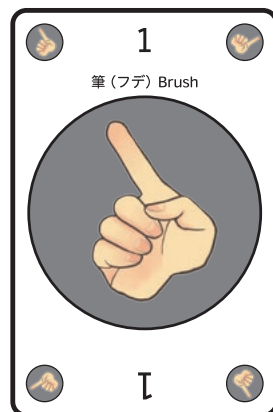
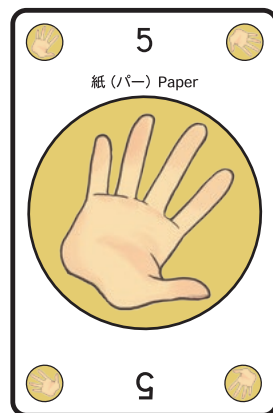
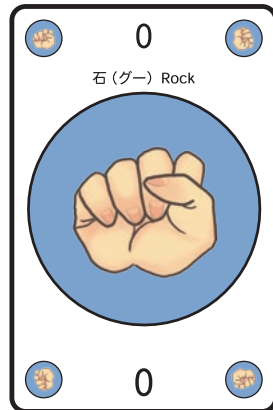
(4) 欧州で井戸という第四の手型があることを知り、それを組み込みました。この手型は簡単のために「井」と表記します。→「**井戸じゃんけん**」<sup>[3]</sup>

(5) 五角対称になるよう、第五の手型として筆（フデ）を加えました。→「**筆じゃんけん**」

(6) 魚市場で競りに使う指数字があるのを知り、それを参考に第六の鴨（カモ）と第七の良（イイネ）を追加しました。これで『ばとけん』の七つの手型が完成しました。

(7) なお、手型の強弱関係や勝負の決め方は固定ではありませんので、ルールのバリエーションは自由です。遊び方は発展途上ということになります。詳細は、**ばとけんの公式ホームページ**<sup>[4]</sup>をご覧ください。

# 7種類の手形

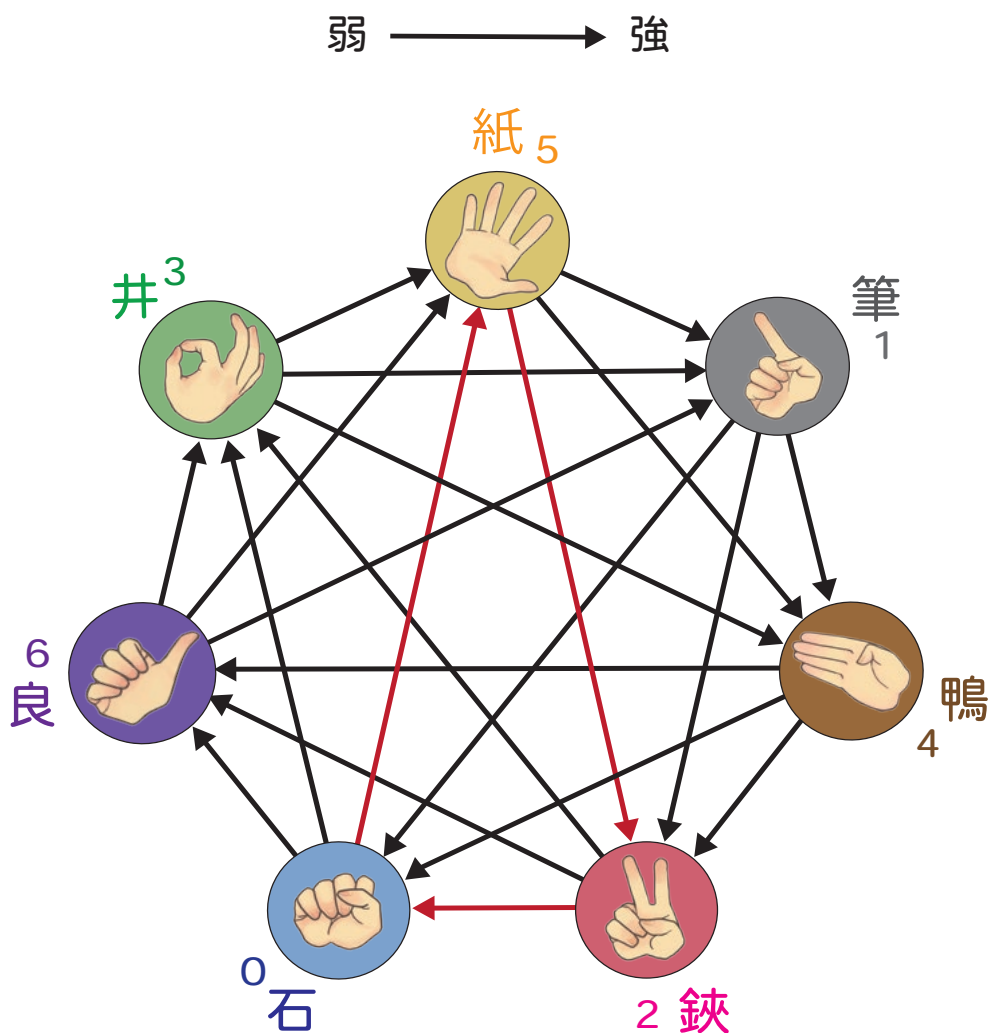


## 手型の強弱

井は、鋏と石を底に落として勝ちますが、紙には塞がれて負けます。筆は、井が墨に染まることで勝ち、紙には落書きをして勝ちますが、鋏と石には壊されて負けます。鴨は、翼があるので井から逃げ出して勝ち、筆と紙をくちばしで突いて勝ちますが、鋏と石には負けます。

各手型は、数字を表しています。これは豊洲市場の競りでも使われる指数字とほぼ同じです。石(グー) = 0、筆(フデ) = 1、鋏(チョキ) = 2、井(イド) = 3、鴨(カモ) = 4、紙(パー) = 5、良(イイネ) = 6、です。ここで6の良は、他の偶数に勝ちますが、奇数に負けます。(→七元相関図・ばとけん)。

## 七元相関図・ばとけん



## 特殊判定

### <衝突>

このルールは人数が多いときに使用します。勝負の前に、このルールの使用を宣言する必要があります。もしも同じ手型を出した人がいたらその人たちを負けにします。これを「衝突」と言います。その回の勝負は、それ以外の残った手型だけで判定します。もしも全員が「衝突」したときは全員の負けになります。これは無勝負と等価です。

### <すくみ>

たとえば、石(グー)・鋏(チョキ)・紙(パー)のように、強弱が周回関係にあって勝負にならないことを「すくみ」と呼びます。通常のじゃんけんでは引き分けになるところですが、『ばとけん』では、「チョキじゃんけん」のルールを継承し、すくみのなかに鋏があるときは、鋏が「すくみ」を断つと考えて、鋏の勝ちにします。鋏が絡まない「すくみ」が生じたときは、数字が大きい手型を勝ちとします。

## 参考文献

- [1] じゃんけんカード『ばとけん』, 銀河企画, (2018年12月),
- [2] 柴崎銀河: チョキじゃんけん, 銀河企画・数理科学セミナー, 2019年2月号  
<http://xtarotg.web.fc2.com/seminar.html>。
- [3] 柴崎銀河: 井戸じゃんけん, 銀河企画・数理科学セミナー, 2019年3月号。
- [4] ばとけんの公式ホームページ  
<http://xtarotg.web.fc2.com/batoken.html>。

## 銀河企画・数理科学セミナー 2019年6月号

2019年6月30日 第1版

発行所 銀河企画

<http://GPI.JP/>